

平成 25 年度 保育サポーター研修会

と き 平成 26 年 3 月 9 日 (日) 10:00 ~ 13:00

ところ 山口県医師会 6 階 大会議室

[報告: 理事 今村 孝子]

サポーター研修会は今回で 5 回目の開催となり、サポーター 37 名 (女性 32 名、男性 5 名) に加えて子育て中の医師 5 名の参加があり、託児も 9 名と回を重ねるごとにかわいいメンバーが増加してきた。

まず、保育サポーターバンク運営委員会の松田昌子委員長 (山口県男女共同参画部会長が兼任) から、保育サポーターバンクの設立背景についての説明があり、続いて設立後 4 年半が経過した現在は県内各地で 125 名のサポーターが登録をされていること、サポート活動中の件数は 27 件、活動中サポーターは 30 名、利用中の医師 24 名と確実に増加がみられているとの報告があった。

今回は初めて研修に参加された方も多く、バンクができた経緯や保育相談の仕組みなど詳しい説明に改めてその役割の大切さを認識できたのではないかと考える。登録はしているもののいまだ活動経験のないサポーターの方は、「お願いできる可能性を残しておいていただけて安心につながり、バンクの運営に役立っています」の言葉に安心された様子だった。

また、「先生の手助けに少しでもなっていれば嬉しい」(活動中サポーター) や「初心者の方にとって子育てのアドバイスをいただき大変勉強になった」「ゆとりが生まれた」「おかげさまで勤めが続けられている」(利用中の医師) など両者の意見が紹介され、この事業がもたらす効果について説明があった。

講演

続いて鼓ヶ浦整肢学園総合相談支援センター『ぱれっと』の堀江秀紀所長から「子どもを支え伸ばすために～問題を抱えた子どもたちとの出会いから～」のタイトルでの基調講演があった。

堀江所長は、静かな口調で「現代はみんな強迫的に生きている。忙しいけれど社会に乗り遅れないようにと先を考えながら追われている。そんな中で時々立ち止まって意識しなければいけないことがたくさんあると思う。そうしないと、今悩んでいる子どもの姿がみえない。苦しんでいる目の前の子どもがみえない」と語りはじめ、「臨床心理士として、児童相談所などで障害児の養育相談や不登校・非行・虐待の相談など自分の 40 数年間の経験から、問題のある子ども、なかでも特に発達障害の子どもから多くのことを学んだ。そしてその支援については、発達障害の子どもに限らずすべての子どもたちへの支援に通じる。」と講演の意図を話された。

忘れられない事例として、身体虐待 (たばこの火を身体に付ける) を受けた小学 1 年生について、彼が「僕はこうせんと悪い癖が治らんから」とあたりまえのように言うことについて、「子どもは虐待をされても自分の親が一番正しいと思っている。子どもにとってはかけがいのない親である。子どもは親から見捨てられたら生きていけないことを本能的に知っている。だからおりこうさんでいるしかない」、「現代では思春期を 20 代後半までひきずっているといわれるが、反抗は必要な儀式である。それによって親も気づき、何かが変わっていく。反抗は次のステップにいく大切な儀式である」とされた。

また、ショックによる行動変化として、PTSD を“一過性”と“反復性”とに区別し、「一過性は、記憶がすぐ正確に残り、突然のフラッシュバックがおこる。それに反して反復性は、虐待が典型



例であり、記憶が曖昧で麻痺してくる。曖昧でないと心がもたないからで、人間の行動は理にかなっている。」との説明があった。その後、さまざまな状態に置かれた子どもの感情表現や感情の変化の過程について、子どもが作った箱庭や描いた絵を示しながら詳細な解説があり、その内容の深刻さに驚きかつ支援（専門的な寄り添い）による変化に感動した。

「非行の問題はネグレクトからで甘やかしからではなく、褒められたり叱られたりする中で、泣いたり笑ったり怒ったりすることにより情緒がしっかり培われる」とし、一方、「良い子の問題は過剰適応であり、頑張っていることがあたりまえになっていることが問題である。虐待と同様で刷り込まれた状態であり、むしろ反抗できる家庭環境は健全な家族と考えられる」とされた。

また、宮崎駿監督の作品『となりのトトロ』の「夢だけど、夢じゃなかった!」に触れ、【夕方植えたドングリの実が一夜にして成長して森になり、サツキとメイ姉妹が一晩中森で遊びまわり、翌朝姉妹が目覚めると森はないがドングリの小さな芽が出ているのをみて「夢だけど、夢じゃなかった!」と叫ぶ】子どもの世界は、夢であろうとなかろうと矛盾していない。つまり子どもは、矛盾が矛盾でない世界に生きている。おとなは、こん

な子どもの状態を「未分化」であるとか、「まだ混沌としていて未完成なのだ」と捉える。とんでもない! 「子どもは小さなおとなではない。子どもの世界は『完全』である。子どもは『今ここで』生きているので目が輝いているのである。」と力説された。

最後に「心を育む3つの条件（心の栄養）」として、安心（居場所・逃げ場所）、ねぎらい（弱さへの敬意）、役割（無条件の承認）を挙げられた。

貴重な経験による「子どもから学んだこと」についての堀江所長の穏やかな語りかけに、参加者はすっかり魅了された講演であった。

昼食懇談会

講演後、堀江所長や保育サポーターバンク運営委員会のメンバーも加わって昼食懇談会が行われた。サポーターの方からの性についての質問には、参加者は大いに考えさせられ、対応方法や考え方についてさまざまな意見が出された。また、宮崎駿監督の作品『千と千尋の神隠し』について、千尋の親子関係や10歳という心理的分岐点についての堀江所長の解説に会場はまたもや納得の頷きの場となり、有意義で楽しい懇談会となった。

